Pierce Clinic

しっかり開けて、きちんと消毒、ピアスの穴開けの基本

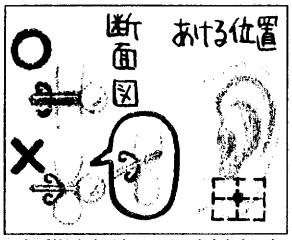
はじめてピアスの穴を開ける人に多い思い込みや不安を解消するために、今回、ノンノでは日本でも数少ないピアスの専門医として学会等でも精力的な活動を行っている高橋知之先生にお話をうかがってみました。

●穴開けには18金ピアスを使うとトラブルがないというのは本当？

どんなトラブルにも適切な治療と助言をくださる高橋先生

——正確には間違い。世間一般では18金安全神話みたいなものがありますが、普通の18金ピアスは細くて短いものが多く、また消毒等の不完全さもあり、おすすめできません。安全性が高いのは、純金メッキした医療用ステンレスのピアス「スタッド」を、専用のピストルで打ち込む方法。スタッドは完全滅菌加工が施してありエイズや肝炎などの心配がなく、ピアスと耳の間にすき間ができないので化膿のおそれも少ないのです。

▲一瞬で穴を開ける専用のピストルと医療用スタッド。



スタッドは太くてキャッチの丈夫なものを。

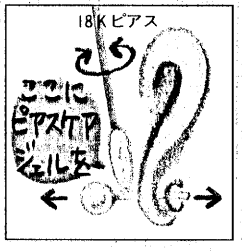
●消毒はアルコールで大丈夫？

——市販のアルコール薬を使う人が大半ですが、刺激が強すぎて皮膚かぶれの原因になることが多いのです。できればノンアルコールで粘着性のある専用の消毒ジェルを使ってください。まずシャワーで汗やほこりを洗い流し水分をていねいにふき取った後、ピアスを前後に動かしながら、一日1〜2回ジェルをつけます（耳の後ろも）。穴からでるリンパ液も綿棒でふき取り、清潔を保ちます。

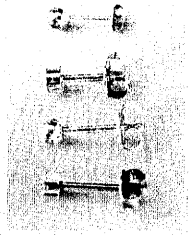
●金属アレルギーって何？

——金属アレルギーとは、アクセサリーに含まれる金属が、汗や体液でわずかに溶けて金属イオンが体内に入り、次に同じ金属に接触すると起こる一種の拒絶反応のことで、アザやかぶれなどの症状が特徴です。指輪やネックレスなどの皮膚につけるアクセサリーに比べて、最初のころのピアスホールは生傷なので金属イオンが体内に入りやすくアレルギーになりやすいのです。一般にニッケルやコバルトはアレルギーを起こしやすく、金や銀は起こしにくいといわれていますが、ごくわずかに金で反応する人もいます。そういう人はチタン製のスタッドを使うとまずアレルギーは防げます（左写真のスタッドは上からK18、6㌢の医療用ステンレス、8㌢の医療用ステンレス、チタン製で、アレルギーの起こる確率はそれぞれ30%、7%、3%、0%だったそう）。また穴開け後、最初のころにするピアスは、ニッケルの金メッキ仕上げのものは避け、比較的軸が太くキャッチのしっかりした（耳からはずれにくい）18金のピアスがおすすめです。さらにニトロセルロースが主成分のセイフティーコートをピアスに塗るのも皮膚との接触を避けるよい方法です。

▼ピアスと皮膚のすき間に少量。



▲右からコート剤、治療用シリコンピアス、消毒剤。

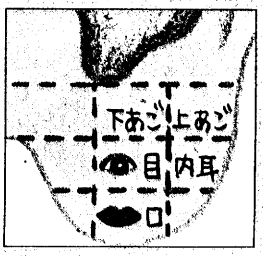


▶穴開け用ピアス。下の素材ほどアレルギーが起こりにくい。

●耳たぶとツボの関係は？

——確かに耳たぶにはツボがたくさんあります。でも目のツボに穴を開けたから失明したり……なんていうのはウソ。ツボを刺激してよくなることはあっても悪くなることはまずありません。さらに白い糸が失明を招くというウワサもウソ。この糸はホールの内側の皮や垢だったりします。

▼耳たぶのツボ。いろいろあって楽しい。



カメラ　谷口陽輔　スタイリスト　長谷川直　ヘア&メイク　小野久美（ハクカル）　モデル　内海恵子（ビーム）　中村ひとみ　イラスト／メイコ・オウモト　取材協力　高橋医院　☎03（3987）1150